

平成 26 年度障害者スポーツ文化センター横浜ラポール事業報告

市内唯一の障害者スポーツ・文化・レクリエーション振興の中核拠点施設として、地域や利用者の様々な状況に即した事業を行いました。運営の基本理念を「リハビリテーションの向上」、「豊かな人生への支援」、「共生社会実現への取り組み」と定め、横浜市リハビリテーション事業団の横浜市リハビリテーションセンターを始めとする各部門との連携を基軸に、リハビリテーション・スポーツ及び文化事業を核とした各種プログラムの展開、多様な地域資源(横浜市体育協会、各種競技団体等)との連携に基づいた事業を推進しました。

昨年度の、第三者評価委員会での評価結果等を踏まえ、第 3 期指定管理者の選定を目指した改善等にも積極的に取り組みました。

利用者サービスの更なる向上を図るため、利用者にとって公平で公正な施設管理運営は重要であり、内部規定の見直しや整理を行いました。また、平成 26 年度に市内で開催されました、横浜マラソン 2015 並びに 2014 世界トライアスロンシリーズ横浜大会へは、障害者スポーツの普及啓発及びアスリート支援等で大会運営への協力と連携を行いました。

今年度の開館日数は 345 日で、施設利用者数は延べ 449,774 人(昨年度延べ 444,254 人)と昨年度に比べ微増ですが、1 日平均約 1,303 人の利用がありました。

1 施設運営事業

(1) 運営方針

障害者等のグループ(団体)または個人による自主的なスポーツ・文化・レクリエーション活動を支援するため、教室等の開催や自主活動としての各種のスポーツ・文化施設の貸出しを行いました。

平日の午前中等の空き時間帯の利用促進策として、市内の企業や音楽教室等へのダイレクトメールの発送を行った他、港北区役所内の掲示版にラポール(事業団)専用ブースを設け、施設紹介ポスターの掲示やイベント情報を紹介しました。広報については、広報紙「ラポラポ」やインターネット等を通して、ラポールの事業を紹介し、障害者の社会参加の促進を図りました。また地下鉄沿線の PR ボックスにて広報誌の配布を行いました。

(2) 平成 26 年度における重点的な取組

平成 26 年度における重点的な取り組みについては、以下のように実施しました。

ア 安全で快適な施設運営の基盤整備

東日本大震災を契機に、毎月 11 日を防災の日と定め、震災を想定した訓練や防災備品の点検等を行い、職員一人ひとりの危機管理に対する意識を高めました。また、施設の老朽化に対し、横浜市と計画的に長寿命化対策を進め、安全で快適な施設運営に努めました。

イ 利用者サービスの向上

利用者の意見を取り入れながら、サービスの向上を図ると共に、季節行事として、こいのぼりや五月人形、七夕の飾りつけなど、季節に合わせた取り組みを年4回実施しました。施設的环境整備については、館内すべての洋式トイレへの温水洗浄便座の設置や、ラポールボックス・小会議室へのプロジェクター等の施設備品を充実し、利用者へのサービス向上に努めました。

ウ 経営感覚を持った管理・運営と増収対策

施設、設備の運営コストの削減を進めると共に、事業参加率向上等による増収策を行いました。具体的な増収策としましては、ボウリングでの投げ放題キャンペーンやラポールシアターでの直前予約割引を実施しました。また、施設利用率向上策として、未利用時間帯の PR 強化として、最新の施設予約状況を日々ホームページへ更新すると共に、近隣の企業や学校、ダンス・ピアノ教室等へラポール利用案内のダイレクトメールの発送を行いました。

エ 広報

広報誌「ラポラポ」の市営地下鉄駅 PR ボックスへの配布の拡大を図りました。全国障害者スポーツ大会の横浜選手団の結果報告として、「ラポラポ」増刊号の発行を行うと共に、大会期間中には、ロビーにて大会競技の速報の掲示を行いました。

2 スポーツ振興事業

(1) 運営方針

「みんな笑顔！」の理想を実現するため、「重度支援」「自立支援」「地域支援」を基本的な指針としながら、「フィールドは横浜市域！」を意識した事業を展開しました。

(2) 平成 26 年度における重点的な取組

ア 新たな事業展開の推進

平成 25 年度より取り組み始めた、スポーツ事業課の新たな事業展開である「ハマピック関連事業」として、「卓球」「ボウリング」の 2 種目を取り上げました。具体的には、卓球ではミニフェスタ（仮称）や記録会、ボウリングでは記録会やハマピックの本大会等をラポールの外部で実施し、障害のある方々が、横浜市域で多様なスポーツ活動ができる環境構築の一助となるように、積極的な地域への働きかけを行いました。

イ 協約及び指定管理公約の確実な達成

現行の指定管理期間も後半となり、当初計画の確実な達成に向けた取り組みを行いました。「ハマピック」の効果的な開催や各競技協会との連携による全国大会代表選手の育成と強化を進めるとともに、関係機関と連携した地域のネットワークを構築し、地域における活動の定着を図りました。

ウ 次期指定管理に向けた取組

次期指定管理の選定スケジュールを想定し、適切な事業計画を提示できるよう、準備を進めました。リハ事業団がラポールを運営する意味を「公共性」「専門性」「先進

性」等々のキーワードと、これまでに培った関係機関との密接な関係、そして蓄積してきたノウハウ等の活用の面から整理し、「地域支援」「人材育成」「アスリート支援」を中心に据えた提案書の作成に取り組みました。

エ 人材育成の充実

ラポールの事業を地域に広げていくためには、様々な形での人材育成が必要不可欠です。これまでに実施してきたスポーツボランティアやスポーツ指導員の育成を踏まえ、必要な場面に必要な人材を適切に供給できるような実践的な人材育成を進めました。

オ 全国障害者スポーツセンター協議会

全国 25 か所の障害者スポーツセンターが加盟している協議会を、12月2日・3日の2日間で開催しました。全体会議の議題を「2020年の東京パラリンピックに向けた取り組み」とし、財団法人日本障がい者スポーツ協会の基調報告の後、意見交換を行いました。障害者のスポーツの最前線である施設の意見は大変貴重な情報であるため、同会議の内容を日本リハビリテーション協会が発行する「ノーマライゼーション誌 2015年2月号」で報告し、全国に発信しました。

(3) 事業内容

ア スポーツ相談・健康相談・栄養相談・医事相談

新たにラポールを利用する人や健康に不安がある人に対し、各種相談を設定し、教室や施設利用方法の紹介、さらに個別指導への導入を行いました。また、必要に応じて主治医や担当セラピストへの照会などを行い、利用者が適切なプログラムへ速やかに参加できるよう、スクリーニング機能等を果たしました。

イ リハビリテーション・スポーツ

医学的リハビリテーションと社会リハビリテーションの中間に位置するリハビリテーション・スポーツを、ラポールにおけるスポーツ指導の中核と位置づけ、リハセンターと連携し、適切なスポーツ導入を図りました。

<リハビリテーション・スポーツ>

プログラム	内 容	回数	参加者数
各種相談	スポーツ相談や健康相談等	701回	701人
リハ・スポーツ教室(学齢)	学齢発達障害児を対象とする教室	13回	70人
リハ・スポーツ教室(高次脳)	高次脳機能障害者を対象とする教室 やフォローアップ	49回	1,553人
リハ・スポーツ教室 (フォローアップ)	教室参加後にフォローの必要性が生じたケースへの対応	8回	38人
リハ・スポーツ教室 (リハセンター連携プログラム)	リハセンターの理学療法士と連携したプログラム	1回	20人
健康づくりモデル事業 ¹⁾ (リハセンター連携プログラム)	リハセンターと連携した、障害者の健康づくりモデル事業	34回	78人
個別指導	障害に応じたマンツーマン指導	669回	669人

学齢障害児支援	学齢障害児のスポーツ体験	29回	123人
旅リハ教室	旅リハの参加に向けた教室等	4回	46人
体力診断（体力測定）	リハ・スポ教室（成人）の参加者を主な対象とする体力測定	2回	98人
合 計（昨年度） 3,396人（3,417人）			

*1) 詳細は「新しい取組」に記載

ウ スポーツ・レクリエーション

各種スポーツ教室では、リハビリテーション・スポーツとの有機的な連携のもと、生涯スポーツ活動の定着に向けた指導を行いました。

各種目教室の充実、各競技協会・大学・プロスポーツチーム等との連携により競技力向上を図る一方で、レクリエーションレベルの利用者が楽しく安全にスポーツを続ける環境の整備を進めました。

<スポーツ・レクリエーション教室>

プログラム	内 容	回数	参加者数
卓球教室（初心者・初級者）	卓球の初心者・初級者の教室	24回	292人
卓球教室（中級者）	卓球の中級者を対象とする教室	24回	574人
卓球教室（上級者）	卓球の上級者を対象とする教室	24回	328人
水泳教室（はじめてプール）	水泳の初心者を対象とする教室	16回	37人
水泳教室（らくらくクロール）	水泳の初級者で片麻痺以外の方を対象とする教室	38回	1,219人
水泳教室（選手クラス）	水泳の競技選手を対象とする教室	16回	404人
ジュニアダンス教室	発達障害の学齢女子を対象とするダンス教室	32回	245人
横浜 F・マリノス futuro	マリノスと協働で開催している知的障害者のサッカー教室	38回	2,072人
アウトドアスポーツ教室	ヨットの体験乗艇を行う教室	4回	22人
合 計（昨年度） 5,193人（5,611人）			

<スポーツ・レクリエーションの時間>

プログラム	内 容	回数	参加者数
フライングディスクの時間	フライングディスクを楽しむ時間	13回	288人
オリジナルスポーツの時間	ラポールで独自に開発したビンゴボールやターゲットボッチャ等のスポーツを楽しむ時間	48回	828人
卓球の時間	卓球を楽しむ時間	21回	518人

ボッチャの時間	ボッチャを楽しむ時間	18回	222人
合 計 (昨年度)		1,856人 (2,367人) ¹⁾	

1)平成 25 年度と比較して 511 人の減少ですが、これは昨年度まで実施していたグラウンドゴルフ広場（昨年度の実績 85 回 587 人）の利用者の自立性が高まったため、プログラムの計上から除いた結果であり、多くの方がグラウンドゴルフを楽しんでいる状況に変化はありません。

エ スポーツ大会・交流イベント

障害者のスポーツの普及振興及び競技力向上を目的に「ハマピック」を行いました。「ハマピック」の結果に基づいて全国障害者スポーツ大会への派遣選手を選考し、11月に長崎県で行われた本大会へ選手を派遣しました。なお、代表となった選手には本大会までの間、強化練習を実施し、競技力の向上を図りました。

知的障害者のサッカーの普及を図るため、横浜F・マリノスとの共催事業としてサッカー教室を開催しました。

スポーツフェスタとして「水泳の日」「ボッチャの日」「ボウリングの日」「バスケットボールの日」「サッカーの日」を開催し、健常者を含めた各種目の愛好者間の交流を進めました。また、フェスタの新種目として「卓球」「フライングディスク」を開催し、ハマピック、全国大会へとつながる取り組みを進めました。

<第 19 回ハマピック>

プログラム	内 容 ¹⁾	回数	参加者数
水泳	身体障害及び知的障害を対象とした水泳競技 (4月20日)	1回	265人
卓球 (STT 含む)	身体障害及び知的障害を対象とした卓球競技 (4月27日)	1回	77人
フライングディスク	身体障害及び知的障害を対象としたフライングディスク競技 (4月29日:新横浜公園投てき練習場)	1回	85人
陸上	身体障害及び知的障害を対象とした陸上競技(5月6日:三ツ沢公園陸上競技場)	1回	431人
アーチェリー	身体障害を対象としたアーチェリー競技 (4月13日)	1回	7人
ボウリング	知的障害を対象としたボウリング競技 (4月13日:港北とうきゅうボウル)	1回	57人
バスケットボール	知的障害を対象としたバスケットボール競技 (9月20日)	1回	71人
ソフトボール	知的障害を対象としたソフトボール競技 (11月9日:岸根公園野球場)	1回	28人
バレーボール	知的障害を対象としたバレーボール競技 (11月22日)	1回	76人

サッカー	知的障害を対象としたサッカー競技 (12月7日：しんよこフットボールパーク)	1回	117人
合 計 (昨年度)		1,214人 (1,239人)	

*1) 内容欄で会場の記載のないものは、ラポールのスポーツ施設で行いました。

<スポーツ・フェスタ>

プログラム	内 容	回数	参加者数
水泳の日	どなたでも参加が可能な水泳の記録会 (7月6日)	1回	430人
ボウリングの日	障害のある方と介護者、家族を対象とした記録会 (8月24日、1月25日)	2回	83人
ボッチャの日	どなたでも参加が可能なボッチャの競技会 (2月22日)	1回	135人
バスケットボールの日	どなたでも参加が可能なバスケットボールの競技会 (8月3日)	1回	92人
サッカーの日	どなたでも参加が可能なサッカーの競技会 (3月21日)	1回	116人
卓球の日 ¹⁾	どなたでも参加が可能な卓球の競技会 (2月1日)	1回	113人
フライングディスクの日 ¹⁾	どなたでも参加が可能なフライングディスクの競技会 (1月18日)	1回	59人
合 計 (昨年度)		1,028人 (737人) ²⁾	

1) 「卓球の日」「フライングディスクの日」は平成 26 年度の新規実施種目です

2) 平成 25 年度と比較して、300 名ほど増加しているのは「卓球」「フライングディスク」を新規に実施したためです。

<各種リーグ戦や記録会>

プログラム	内 容	回数	参加者数
卓球競技会	卓球やサウンドテーブルテニスの競技力向上を目的とした競技会	2回	77人
ボッチャリーグ	ボッチャの競技力向上を目的とした競技会	8回	215人
フライングディスク記録会	フライングディスクの競技力向上を目的とした記録会	雨天中止	
ボウリング記録会	ボウリングの競技力向上を目的とした記録会	6回	77人
全国大会強化練習	横浜市代表選手を対象に競技力の向上を図る練習会	44回	313人
合 計 (昨年度)		682人 (1,329人) ¹⁾	

1) 平成 25 年度と比較して 647 人の減少ですが、これは昨年度まで実施していたオレンジ

リーグ（卓球、全 11 回開催）を卓球競技会（全 2 回）に変更したことと、フライングディスク記録会が雨天で中止となったためです。

<第 14 回全国障害者スポーツ大会の実績>

期 間：平成 26 年 10 月 30 日～11 月 4 日

開 催 地：長崎県

派遣人数：選手 67 人・役員 39 人の合計 106 人

成 績：金=43 個、銀=12 個、銅=11 個（大会新記録 12）

メダル獲得率：全国第 5 位 金メダル獲得率：第 2 位¹⁾

1)メダル獲得率及び金メダル獲得率の各順位は、47 都道府県と 20 政令市の全 67 チームにおける結果です。

オ 人材育成

横浜市域における障害者のスポーツ活動を支える実効性の高い人材育成と活用の拡充が重要であると捉え、これまでの各種研修に加え、より実践的で現場に活かせるプログラムを実施しました。また、障害者スポーツの普及・啓発活動を市内の小中学校を対象に学校に出向いて行いました。

<各種研修>

プログラム	内 容	回数	参加者数
障害者スポーツ・ボランティア養成入門講座	原則 15 歳以上、横浜市に在住のボランティア活動希望者を対象とした研修会（5 月 16 日～9 月 30 日）	11 回	38 人
初級障害者スポーツ指導員養成講座 ¹⁾	原則 18 歳以上、横浜市に在住のスポーツ・ボランティア養成入門講座受講者かスポーツ・レクリエーションの指導を行っている方を対象とした研修会（2 月 1 日、2 月 2 日・15 日・16 日）	4 回	180 人
ステップアップ研修会	横浜市域の障害者のスポーツ活動を支援するボランティアや指導者に必要な知識と技術の向上を図る	2 回	26 人
障害者スポーツ体験研修会	横浜市内の学校を中心に小中学生や教職員へ障害者スポーツの理解を深める体験研修会	30 回	2,549 人
地域スポーツ団体研修会	横浜市体育協会や地域ボランティア等を対象にした実践的な研修会	15 回	280 人
大学機関への障害者スポーツ研修会	横浜市内外の大学に対する講義・実習、卒論研究協力等による普及啓発	6 回	362 人
横浜市職員や企業向けの障	横浜市や企業の職員に対し、障害者ス	1 回	17 人

害者スポーツ体験研修会	スポーツの普及啓発を図る研修会		
中学生・高校生職場体験	中学生や高校生がラポール各課の見学や体験を通し、職業について学ぶ研修	3回	19人
職場内研修	事業団職員の新人研修とラポールのスポーツ指導員のスキルアップ研修	8回	161人
サークル支援研修	卓球クラブへのストレッチ指導	1回	22人
合 計 (昨年度)		3,654人 (3,328人)	

1) 財団法人日本障がい者スポーツ協会が資格を付与します。ラポールは講座開講の認定を受け、実施しています。

カ 地域支援

今年度の地域支援は、身近な地域でスポーツを楽しみながら、健康づくりやリハビリテーションを進めることやスポーツ種目の普及、自主的な活動を始めたサークルのフォロー等を主な目的として、市内 18 区（中活センター、スポーツセンター、ケアプラザ等）で実施しました。種目では、ボッチャが 79 回（36.6%）と最も多い実施でした。グラウンドゴルフは 19 回（8.8%）と減少傾向にあり、昨年度から充実を図ってきた卓球が 46 回（21.3%）に増え、その結果スポーツフェスタに新設した「卓球の日」に多くの方々が地域から参加していました。

また、地域における障害者のスポーツを充実させていくために、関係機関との連携を深めるネットワークの構築では、瀬谷・金沢・鶴見・旭・戸塚の 5 区で区役所、中活センターや体育協会等との関係を強化しながら、活動の定着に努めました。

さらに、行政サービスの対象となった難病系（関節リウマチ、ALS、脊髄小脳変性症等）の方々に向けた支援については、リハセンターとの連携の上、対象疾患の状況にあわせたプログラムの実施を行う中で、対応ノウハウの蓄積に努めました。

<地域支援>

プログラム	内 容	回数	参加者数
スポーツ教室	原則、地域の障害者を対象としたスポーツ教室	58回	966人
フォローアップ	ラポールのこれまでの取り組みにより、地域で自主的なスポーツ活動を開始したサークル等に対する支援	56回	776人
研修	地域のボランティア等を対象とした研修	3回	205人
介護予防系プログラム	主に高齢者を対象としたプログラム	5回	97人
その他	原則として地域の障害者を対象とした出張スポーツ指導や、地域間交流スポーツ大会等の開催	94回	1,367人
合 計 (昨年度)		3,411人 (4,759人)	

キ 新しい取組

ハマピックを軸としたスポーツ振興を進める観点から、ハマピックへつながる大会としてのスポーツフェスタに「卓球」「フライングディスク」を新たに開催しました。これらの大会では、地域やラポール館内で実施した教室と連動し、多くの方が参加するように進めました。

横浜リハセンターの理学療法士と連携し、成人期の重度肢体不自由ケースに対するスポーツプログラムを、試行的に開催しました。日ごろ運動不足になりがちな対象が、ストレッチや用具に工夫を凝らした卓球等の実施により、楽しく活動する場面を作っています。

横浜マラソン 2015 の開催にあたり、プレイベントにおけるスポーツ体験コーナーと大会当日の運営に協力すると共に、ラポール利用者の参加を促しました。パシフィコで行われたプレイベントでは、大変多くの来場者に車いすレーサーやハンドサイクルの体験をしていただき、障害者のスポーツへの理解を図りました。

また、ラポールの利用者では、2km 車いすクラス（参加者は 23 名）に 11 名の方が参加しました。

国立身体障害者リハビリテーションセンターと進めている「障害者の健康づくりプログラムの構築と普及のための地域連携モデル事業」は、障害者の生活習慣病等に対する有効な支援プログラムの構築を目指すものです。リハセンターとラポールの利用者に対して、身体状況の把握、生活指導、栄養指導、運動指導をセットにしたメニューを一定期間行い、プログラム前後でのデータを評価しました。

また、このプログラムの経験を活かし、ラポールのメニューとして「メタボリック改善教室」を新規に実施しました。



横浜マラソン 2015 プレイベント



横浜マラソン 2015 大会当日

(4) 課題への対応

ア 地域支援の充実

地域におけるネットワークづくりでは、5区（鶴見、旭、金沢、戸塚、瀬谷）における取り組みを確実に進めました。

また、5区の取り組みを参考としながら、新たに構築を試みる他の地域の区役所や中途障害者地域活動センターを軸に、当事者や体育協会等を交えたスポーツ交流大会（卓球）を行い、積極的な全市的展開に向けた取り組みを図りました。

イ ハマピックの充実

指定管理の達成目標「全国障害者スポーツ大会のメダル獲得率の全国 10 位以内」を達成するため、ハマピックの充実、フェスタの種目拡大を実施しました。

また、市外からのハマピック参加者を認め、競技会自体の競技レベルを高めることによる、横浜市代表選手の向上に努めました。

その結果、第 14 回全国障害者スポーツ大会「長崎がんばらんば大会」では、メダル獲得率：第 5 位、金メダル獲得率：第 2 位の成績を収めました。

ウ 市民イベントへの協力

スポーツ基本法第 2 条「スポーツは、障害者が自主的かつ積極的にスポーツを行うことができるよう、障害の種類及び程度に応じ必要な配慮をしつつ推進されなければならない。」の方針に沿って、障害のある方々が参加できる色々なスポーツイベントが開催されるようになりました。

今年度は、横浜マラソンや世界トライアスロンシリーズ横浜大会などに様々な形で協力しました。

エ アスリートの発掘・支援

アスリートへの支援では、全国障害者スポーツ大会の横浜市代表選手に対する個別の強化トレーニングや、ボウリング競技における対外試合への参加及び定例的な練習会の開催等を行いました。また、選手の状況をより細かく把握するため、ケース検討会を行い、指導に反映しました。

3 文化振興事業

(1) 運営方針

障害者の文化活動発表の場である「横浜ラポール芸術市場」や、障害児のおもちゃ遊びを支援する「おもちゃ図書館」など、多様な文化体験ができる「観る・聴く・楽しむ」場を提供しました。また、文化活動を支援する人材の確保・育成に努めました。

(2) 平成 26 年度における重点的な取組

ア リハビリテーション・カルチャー(リハカル)の推進

主に片麻痺の方を対象に、リハセンターと連携し、生活自立に直結した内容の講座を実施しました。「片手でできる料理教室」を中心的な事業として位置付け、実施しました。

※リハビリテーション・カルチャーとは、QOL の向上を目的とした文化活動として、平成 22 年度より用いている横浜ラポールによる造語です。略して「リハカル」と呼んでいます。

イ 中高生を対象にした文化アラカルト講座の実施

教室対象者としてカリキュラムの少ない、訓練会等でラポールを利用している障害のある中高生をターゲットに、各種教室のプログラム(陶芸、料理、造形)を一連に体験し、余暇の充実を図ると共にプログラムによる興味の引き出しをしました。

ウ アートをテーマにした教室・ワークショップの拡充

既存の教室のほかに、タブレットを利用してのぬり絵の体験など、アートへの拡充を図りました。

エ 地域支援事業

移動おもちゃ図書館やバリアフリークッキングを各地域で共催実施すると共に、特別支援学校を利用した演劇ワークショップの出張公演を開催しました。

(3) 文化企画事業

障害者の文化活動発表の場である「横浜ラポール芸術市場」、ラポールシアターでのコンサート等のほか、どなたでも気軽に参加できる「ラポールファクトリー」を開催しました。また、様々な文化教室・ワークショップ、陶芸作品の窯焼きを毎月実施しました。

ア 文化振興事業

障害者の文化活動の発表や地域交流の場である「横浜ラポール芸術市場」の開催にあたっては、作品・出演者を広く公募し、日頃の活動が発表できる場としました。

今年度は、10月20日～12月20日の期間中に、11のイベントプログラムを開催し、延べ3,801人が参加しました。

<横浜ラポール芸術市場>

プログラム	内 容	回数	参加者数
ラポール美術展	絵画、写真、書、陶芸など約500点の作品の展示会。同時に「さをり織り」や書道などのワークショップを体験コーナーとして「あなたも芸術家!？」を併催(10月20日～26日)	1回	2,225人
ドリーマーズステージ	障害のある方が参加しているコーラスグループと喜劇のグループの合同発表会(11月1日)	1回	103人
OTO2014	障害のある方が参加しているグループによるミュージカルとゴスペルコーラスの合同発表会(11月2日)	1回	192人
DANCE-DANCE-SONG	障害のある方が参加しているグループによるダンスとバンドの発表会(11月9日)	1回	301人
野点	ラポールで活動している茶道サークルによる抹茶のサービス(11月9日)	1回	90人
いのち 生命のリズム	障害者による太鼓と演奏やギターの弾き語りの発表会(11月30日)	1回	103人

みんなdeパソコン	障害者のパソコン利用支援グループ「ドリームナビゲーター横浜」による、パソコンを使 っての缶バッジ作りやタブレット操作体験 ※パソコン相談会と併催(11月29日)	1回	74人
オータムコンサート	横浜ラポールのワークショップから自主サー クルで活動しているグループや地域の障害者 団体によるコーラスなどの発表会(11月30日)	1回	164人
ハートフルコンサ ート	障害者によるピアノ演奏や器楽合奏等の合同 発表会(12月13日)	1回	138人
ジョイフルフェス タ	障害がある方たちによる和太鼓、コーラス、 フラダンスなど様々なジャンルの合同発表会 (12月14日)	1回	208人
君の笑顔と生きて いく	障害者グループによる歌とダンスの合同発表 会(12月20日)	1回	203人
合 計(昨年度)		3,801人(4,494人)	

イ 交流事業

障害の有無に関わらず、多くの人々が共に楽しめるイベントを、様々な団体と共同企画し、幅広い文化領域にわたって開催しました。また、新横浜で行われる大規模なイベントの新横浜パフォーマンスへは、新横浜ライオンズクラブと共催し、「ラポール寄席」を開催しました。

今年度は、14のイベントプログラムを開催し、延べ3,031人の参加がありました。

また、1階ロビーでは、ラポールファクトリーを8回開催し、延べ434人の参加がありました。

<自主・共催企画事業>

プログラム	内 容	回数	参加者数
ビッグ・アイア ートプロジェクト 「共振×響心」展	国際障害者交流センターとの共催による、国 内外の障害者アーティストの入選作品展 (5月14日～5月19日)	1回	1,056人
横浜交流音楽祭	アマチュアとプロ、さらに障害者の演奏家に よる市民手作りの音楽交流フェスティバル (5月31日)	1回	277人
福祉レクリエーシ ョンフォーラム in 横浜ラポール	全国福祉レクリエーション・ネットワーク、 日本レクリエーション協会との共催による、 障害者の文化活動を支える方々を養成するフ ォーラムを開催(6月14日・15日)	2回	94人

映画上映会 「言葉のきずな」	長野県で活動する、言語・音声機能の障害(失語症や構音障害)の方たちの劇団の活動取材したドキュメンタリー映画の上映会(6月15日)	1回	87人
きりくハンドベル コンサート	世界的に活躍しているハンドベルグループによるコンサート(6月29日)	1回	173人
夏休み 舞台のお 仕事講座	シアターの音響・照明機器に実際に触れてもらい、舞台演習がどうなされているか実際に体験する講座(8月7日・8日・10日)	3回	20人
横浜桜座字幕付き 舞台公演「どんぐ りと山猫」	演劇ワークショップ参加者と、その講師が率いる劇団による舞台公演。聴覚に障害がある方にも楽しんでもらえるよう、日本語字幕を付けて上演。「舞台のお仕事講座」の受講生に照明の補助を依頼。(8月10日・2月8日は午前と午後の2回公演)	3回	576人
アフタヌーン コンサート	シアターの空き時間を利用したボランティア団体による、気軽な弦楽コンサート(10月4日)	1回	49人
ラポール寄席	新横浜ライオンズクラブと共催し、障害者・パラリンピック支援を目的に、障害者と地元市民の交流を図るため寄席を実施(10月19日)	1回	208人
国際親善交流特別 演奏会	日本音楽文化交流協会と共催し、障害者を無料招待したクラシックコンサート(11月10日)	1回	177人
バリアフリーエン ターテイメントラ イブ「あぴラッキ ー☆CROSS」	プロのダンサーと障害のあるメンバーが一表現者として共に空間やストーリーを創りながら、即興で踊り表現する、これまでにない新しいステージを披露(11月22日)	1回	142人
ビッグ・アイ災害 時要援護者・支援 者のための防災・ 減災講座	被災経験のある当事者・救援活動を行う支援者から、災害時における避難・支援活動及び防災・減災活動に役立つと考えられる知識やアドバイスの講座。国際障害者交流センターとの共催事業。(1月28日・29日)	2回	88人
耳の日イベント字 幕付き映画上映会 「ぼくとママの黄 色い自転車」	聴覚障害の方にも楽しんでいただけるよう、字幕サークルが日本語字幕を付けた映画会。(3月1日)	1回	84人

みはらしポンテ 「作品・映像展」	市内の障害者支援拠点で制作したアニメーションとそれに関する作品の展示会(3月6日～12日)	1回	—
合計(昨年度)		3,031人(1,853人)	



横浜ラポール芸術市場
「ラポール美術展」



横浜桜座字幕付き舞台公演
「どんぐりと山猫」

<ラポールファクトリー>①

プログラム	回数	参加者数
ロビーマジックショー	8回	52人
うたって おどって 紙芝居がやってきた		72人
山姥の唄		60人
秋に奏でるヴィブラフォンとヴァイオリンの響き		56人
ようこそ紙芝居の世界へ(手話通訳付き)		41人
みんなで聴こう!クリスマスコンサート		50人
アカペラトリオ うたうやまんば		50人
無礼面の音楽会		53人
合計(昨年度)	434人(454人)	

*1) 1階ロビーにて、毎月1回、第2土曜日の昼休みに音楽会などを開催しました。
(4月・8月・9月・1月を除く)

ウ 自己啓発事業

障害者の創作活動や余暇活動の支援、日常生活を技術的に支援するために、対象者やテーマ別に各種の教室・体験会を開催しました。

今年度の教室は、16の教室を開催し、延べ1,348人の参加があり、陶芸窯焼成については、9回開催し、延べ317人の参加がありました。

<教室等>

プログラム	内 容	回数	参加者数
失語症の方のための会話の会	リハセンターの言語聴覚士と連携、ST 訓練を経た失語症者に対し、テーマに沿った内容の座談会を支援するプログラム	12 回	148 人
失語症の女性のための会話の会	リハセンターの言語聴覚士と連携、ST 訓練を経た失語症の女性に対し、テーマに沿った内容の座談会を支援するプログラム	12 回	70 人
失語症について学ぶ研修会	講師:リハセンター言語聴覚士 小島真奈美・滝沢沙織 (6月7日)	1 回	34 人
キッチンスタジアム in ラポール	リハセンターの作業療法士、ソーシャルワーカーと連携、片麻痺の方を対象にした料理教室(4月22日・5月20日・6月24日・9月2日・10月7日・11月18日・1月20日・2月13日・3月3日)	9 回	52 人
バリアフリークッキング in フォーラム	「男女共同参画センター横浜」との共催で、主に障害のある男性を対象にした料理教室(3月7日・14日)	2 回	24 人
バリアフリークッキング in アートフォーラムあざみ野	「男女共同参画センター横浜北」との共催で、主に障害のある男性を対象にした料理教室(12月6日・13日)	2 回	24 人
ラポールバリアフリークッキング	食生活に興味を持ち、栄養や料理についての知識を深め、簡単で健康的なメニューに取り組む料理教室	6 回	67 人
アートサロン	主に中途障害者を対象とした平日実施の絵画教室	9 回	103 人
ものづくり広場	主に10～30歳代の知的障害者を対象とした、絵画や工作を中心とした教室	9 回	93 人
造形ワークショップ	主に身体障害者を対象とした絵画や造形作品を制作する教室	9 回	67 人
夏休み親と子の工作教室	神奈川土建一般労働組合横浜支部の協力により、夏休み恒例の親子で楽しめる木工やタイル細工の教室(8月24日)	1 回	17 人

演劇ワークショップ	【前期コース】平成25年度に続き、主に知的障害者を対象に表現活動の場を提供し、仲間づくりや表現力向上を支援するプログラム(4月27日・5月11日・25日・6月8日・22日・29日・7月6日・20日・8月3日・9日・10日)	11回	150人
	【後期コース】前期コースに続き、共催事業として演劇ワークショップを支援(11月9日・23日・12月7日・21日・1月18日・25日・2月1日・7日・8日)	9回	117人
食育ワークショップ	障害児とその家族が、短時間かつ気軽に参加することができる親子の料理教室(7月26日・27日・3月21日・22日)	4回	48人
陶芸1日体験教室(初心・初級・親子)	片麻痺、視聴覚障害、障害児等年齢や障害の特性に配慮した陶芸体験会	14回	197人
陶芸サロン	陶芸初心者のためのフォローアップとしてサロン形式で実施	14回	103人
中高生のための文化教室	当館において対象講座が少ない中高生をターゲットに、一連の文化体験(陶芸、料理、造形)プログラムを実施	3回	34人
合 計(昨年度) 1,348人(1,204人)			

<陶芸窯焼成>

プログラム	内 容	回数	参加者数
陶芸窯焼成個人	個人利用者が対象の素焼きと本焼き(有料)	6回	295人
陶芸窯焼成大物	20cm以上の大物作品の焼成	3回	22人
合 計(昨年度) 317人(238人)			

(4) おもちゃ図書館事業

おもちゃ図書館事業では、障害児が地域や家庭で遊びの幅を広げられるよう多様なおもちゃを保管し、遊びの場を提供すると共に、障害児及び障害児関連団体等を対象におもちゃ等の貸出しを行いました。26年度のおもちゃ図書館利用者数は10,027人(昨年度8,853人)で、そのうち団体利用は525人でした。

また、主に夏休み・春休み期間のおもちゃ展や工作教室、おもちゃ病院などの行事やボランティア研修会を実施し、延べ2,374人(昨年度2,836人)が参加しました。参加数カウントはできませんが、中学生以上の方も気軽に遊べるようにおもちゃ図書館前のロビーにゲームやパズルなどを設置しました。

ア おもちゃ・紙芝居・書籍類の貸出

内 訳	26 年度貸出数	(昨年度)
個人貸出 (障害児・保護者等)	2,893 点 1,279 人	(2,726 点) (1,181 人)
団体貸出 (療育機関・訓練会等)	2,758 点 504 団体	(2,746 点) (452 団体)

イ 研修会の実施(サポーターバンク研修を兼ねる)

プログラム	内 容	回数	参加者数
障害のある子の 余暇活動・遊びに かかわる人のた めの研修会	「発達につまずきのある子どもの遊びを 支えるためのヒント」 講師：関谷由美（横浜市北部地域療育セン ターびーす中川園長） (11 月 29 日)	1 回	32 人

ウ 行事・イベント等の実施

プログラム	内 容	回数	参加者数
おもちゃ病院	個人や団体・横浜ラポールの壊れたおも ちゃ計 395 点をワイワイおもちゃドク ターズ倶楽部のボランティアが修理	12 回	個人 135 人 団体 25 件
みんなの お楽しみ会	第 2 土曜日に実施する、お誕生月の児童 のお祝いのための手遊びやマジック	10 回	294 人
工作ひろば	第 2 土曜日に実施する、年齢問わず参加 できる簡単な工作の会	10 回	374 人
カード&ボードゲ ーム・吊るす布お もちゃ展	震災の時に活躍した電池を使わない紙の おもちゃとして、カードゲームなどを展 示(6 月 20 日～6 月 30 日)	1 回	カウント無 3 階ロビー 展示
わくわくボックス	「縁日ごっこ」「クリスマス」などをテー マに、ボランティアや演奏グループが中 心になって開催する遊びの会 (7 月 5 日、12 月 6 日)	2 回	136 人
四季の工作	貝殻や木の実などの自然素材を利用した 工作教室 講師：黒川信人(7 月 26 日・11 月 1 日)	2 回	48 人
夢と光のおもちゃ 展	光るおもちゃをはじめ、プロジェクショ ンマッピングなど光をつかった遊びの紹 介・展示。 (8 月 21 日～8 月 25 日)	1 回	447 人
世界のバリアフリ ーの絵本展 2013	「障害」をテーマにした世界 23 か国の絵 本 60 冊の展示。(10 月 2 日～10 月 13 日)	1 回	カウント無 3 階ロビー 展示

春のおもちゃ展～クルクル回るおもちゃ特集～	コマやヨーヨー、ビー玉やボールなどを転がして動きを楽しむおもちゃの展示(3月26日～3月30日)	1回	308人
ラポールの祭典「おもちゃの広場」	神奈川県内のおもちゃ図書館ボランティアによる遊びや工作教室(9月1日)	1回	600人
合 計(昨年度)		2,374人(2,836人)	

(5) 情報ネットワーク

パソコン等の情報端末を通して、社会参加のための情報収集・提供やコミュニケーションの支援を行いました。

ア ホームページの運営

横浜ラポールのイベント情報等を中心とした、ホームページのコンテンツ制作及び運営を行いました。また、横浜ラポール内の全施設の予約状況は運営日に毎日更新し、広報誌「ラポラポ」が閲覧できるページについては、月1回の更新を実施しています。

ホームページアドレス <http://www.yokohama-rf.jp/shisetsu/rapport/>

・運営状況

年間総アクセス数： 736,971件(昨年度：852,291件)

イ 情報バリアフリー支援講座の開催

情報バリアフリーを進めるための講座などを行いました。

<情報バリアフリー支援講座等>

プログラム	内 容	回数	参加者数
パソコン相談会	パソコンボランティアの協力を得て、初心者を対象とした、パソコンの購入・使用方法等に関する相談会とパソコン体験会	4回	123人
夏休みパソコンであそぼ	中高校生を対象とした、パソコンを使ったオリジナルバッグ作成などの講習会	2回	16人
合 計(昨年度)		139人(141人)	

(6) 地域支援(出張サービス)

地域における障害児・者の文化活動を推進するため、市内の施設などとの共催事業等として、移動おもちゃ図書館等の事業を実施し、地域支援活動を支援しました。

今年度は、10の地域支援プログラム開催し、延べ3,679人の参加がありました。

<地域支援>

プログラム	内 容	回数	参加者数
-------	-----	----	------

横浜桜座出張公演 「どんぐりと山猫」	ラポール事業を広く市域に発信し、障害のある方の余暇活動として提案すると共に、ワークショップ参加者の意欲や自信を高めるため、港南台ひの特別支援学校を利用して出張公演を実施(9月28日)	1回	106人
バリアフリークッキング in フォーラム [再掲]	「男女共同参画センター横浜」との共催で、主に障害のある男性を対象にした料理教室(3月7日・14日)	2回	24人
バリアフリークッキング in アートフォーラムあざみ野 [再掲]	「男女共同参画センター横浜北」との共催で、主に障害のある男性を対象にした料理教室(12月6日・13日)	2回	24人
当事業団利用者作品展 at 横浜市役所	当事業団を利用されている方たちの出張作品展。市役所の障害者週間イベントに合わせて実施(12月2日～11日)	1回	—
移動おもちゃ図書館 「あおばおもちゃの広場」	「あおばおもちゃの広場」より依頼を受け、青葉区社会福祉協議会との共催で、地域の障害児と健常児の交流を目的に実施しているおもちゃ広場の活動を支援(通年)	61回	2,274人
移動おもちゃ図書館 「にこてらす」	瀬谷区子育て支援拠点「にこてらす」より依頼を受け、同所が取り組む障害児支援のための時間「にこポンテ」に、おもちゃの搬入出を介した定期的な支援、ラポール事業の紹介(通年)	51回	472人
移動おもちゃ図書館 「ヨッテク」	ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド2014にて、ラポールのおもちゃ図書館の活動を紹介(7月11日～12日)	1回	—
移動おもちゃ図書館 「港南地域療育センター」	「港南地域療育センター」より依頼を受け、同センターが初めて開催する「センター祭」に出展し、当館の活動を紹介(11月2日)	1回	206人
移動おもちゃ図書館 「海の公園」	「MUTSURA おもちゃ研究所」より依頼を受け、金沢区の海の公園ふれあいセンターにて当館のおもちゃを紹介(6月14日～16日)	1回	317人
出張パソコン相談会 & 缶バッジ制作	ヨッテクの会場を活用してパソコン相談会と缶バッジやぬり絵アプリのワークショップ(7月11日・12日)	2回	256人
合 計(昨年度)		3,679人(3,466人)	

(7) 季節行事

平成 22 年度より、利用者に親しまれる「横浜ラポール館内の景観作り」として、自己啓発事業の教室で作られた美術作品を 1 階ロビーに展示するとともに、利用者の方々にも季節行事に参加していただきました。7 月の「七夕」では、利用者の方々に短冊に願い事を書いていただき、それらを地元の方からいただいた笹竹に飾り付けました。その他には、5 月に「こどもの日」と合わせて、こいのぼりの飾りつけや兜の展示、12 月に「クリスマス」の飾り付けと作品展示、3 月に「ひなまつり」の飾り付けと作品展示を実施しました。



兜・こいのぼり展示



七夕まつり

4 聴覚障害者情報提供施設事業

(1) 運営方針

国の定める「聴覚障害者情報提供施設」として、関係機関・団体や他都市の聴覚障害者情報提供施設と連携し、「手話通訳者・筆記通訳者派遣」・「聴覚障害者相談」・「ビデオライブラリー」・「視聴覚機器の貸出」等の指定管理事業を実施しました。

派遣事業においては、研修事業と連携した派遣調整をおこない、幅広いニーズに対応できる通訳者層の拡大に努めてきました。相談事業では、リハセンター及び関係機関団体との連携により「聞こえの相談事業」の事業内容の充実に努めました。また、高齢ろう者(独居・夫婦世帯)への支援については、引き続き、訪問等の出張相談に積極的に取り組みました。

(2) 平成 26 年度における重点的な取組

ア 将来を見据えた手話通訳者体制の整備

年々増大する派遣ニーズに対し、横浜市と協議しながら安定的に対応できる手話通訳者体制の整備に努めました。

イ 聞こえの相談事業

リハセンター及び関係機関団体との連携により、事業内容の充実に努めました。

ウ 高齢ろう者(独居・夫婦世帯)への支援

引き続き、出張(訪問)による相談の拡充を図りました。

(3) 手話通訳者・筆記通訳者派遣事業

聴覚障害者及び音声又は言語機能障害者が、社会生活上必要とする場合に手話通訳者または筆記通訳者を派遣し、意思の疎通を支援することにより、聴覚障害者等の福祉の増進を図ることを目的として事業を実施しました。

ア 平成 26 年度事業の概況

(ア) 総派遣・紹介人数は 10,332 人(手話通訳 8,629 人・筆記通訳 1,703 人)で、派遣・紹介人数としては過去最高でした。

(イ) その他、情報提供施設に来所された聴覚障害の方で、代理電話(電話通訳)を希望された延べ 356 人に対し、延べ 540 件の通訳を実施しました。

手話・筆記通訳者別派遣・紹介人数

通訳者の種類		派遣人数	紹介人数	合計	
手話通訳者	非常勤手話通訳者	30 人	3,640 人	116 人	3,756 人
	登録手話通訳者	122 人	3,934 人	879 人	4,813 人
	情報提供施設職員	7 人	60 人	0 人	60 人
	小計	159 人	7,634 人	995 人	8,629 人
登録筆記通訳者		85 人	1,384 人	319 人	1,703 人
合計 (昨年度)		244 人 (257)	9,018 人 (8,524)	1,314 人 (1,252)	10,332 人 (9,776)

内容別派遣・紹介人数

通訳内容	手話通訳者		筆記通訳者		合計	
	派遣	紹介	派遣	紹介	派遣	紹介
医療・保健に関すること	4,659	30	111	0	4,770	30
	4,689		111		4,800	
司法に関すること	59	42	7	0	66	42
	101		7		108	
教育・保育に関すること	859	18	64	3	923	21
	877		67		944	
労働・雇用に関すること	225	425	27	94	252	519
	650		121		771	
社会生活に関すること	1,015	34	72	4	1,087	38
	1,049		76		1,125	
自己啓発に関すること	264	6	74	0	338	6
	270		74		344	
福祉推進に関すること	547	440	1,027	218	1,574	658
	987		1,245		2,232	
聴覚障害者相談の通訳	6	0	2	0	8	0
	6		2		8	
合計	7,634	995	1,384	319	9,018	1,314

(昨年度)	(7,233)	(951)	(1,291)	(301)	(8,524)	(1,252)
		8,629 (8,184)		1,703 (1,592)		10,332 (9,776)

公的派遣人数の内訳

	手話通訳関係		筆記通訳関係	
	派遣数	割合	派遣数	割合
医療・保健に関すること	4,659	61.0%	111	8.0%
司法に関すること	59	0.8%	7	0.5%
教育・保育に関すること	859	11.3%	64	4.6%
労働・雇用に関すること	225	2.9%	27	2.0%
社会生活に関すること	1,015	13.3%	72	5.2%
自己啓発に関すること	264	3.5%	74	5.4%
福祉推進に関すること	547	7.1%	1,027	74.2%
聴覚障害者相談の通訳	6	0.1%	2	0.1%
合 計	7,634	100.0%	1,384	100.0%

(ウ)横浜市消防局に対し救急手話通訳者手配を、神奈川県警通訳センターに対し事件・事故の際の手話通訳者手配を、それぞれ以下の通り協力しました。

<救急手話通訳派遣事業での派遣対応した人数> (公的派遣)

通訳依頼時間	実績(昨年度)	備 考
派遣窓口時間内(9:30-17:00)	15 人(15)	
派遣窓口時間外(17:00-9:30)	18 人(16)	同事業に登録している通訳者 34 人
合 計	33 人(31)	

<神奈川県警通訳センターの事件・事故通訳関係の対応人数> (紹介)

通訳依頼時間	実績(昨年度)	備 考
派遣窓口時間内(9:30-17:00)	24 人(31)	
派遣窓口時間外(17:00-9:30)	0 人 (5)	同事業に登録している通訳者 26 人
合 計	24 人(36)	

(エ)横浜市民が市外で通訳者を必要とする場合は、当該市町村と連携・調整をおこない、広域的な派遣ニーズにも対応しました。

<他都市との通訳者派遣調整>

	横浜から他都市に通訳の手配依頼をしたもの	他都市から横浜に通訳の手配依頼があったもの
医療・保健に関すること	11	30
司法に関すること	0	1
教育・保育に関すること	37	6
労働・雇用に関すること	2	5
社会生活に関すること	15	17
福祉推進に関すること	0	4

合計件数 (昨年度)	65(43)	63(76)
事業所数 (昨年度)	17(15)	15(10)

キャンセル・変更等処理件数

内 容	件数	説 明
通訳者が手配できなかった	10	前日窓口終了後や当日の依頼で派遣不可能 等
依頼者からのキャンセル	290	取消・日程変更・主催行事中止・自然災害 等
派遣対象外	5	派遣場所が市外で、内容が市外派遣対象外 等
他都市の派遣窓口を紹介	82	広域の派遣として他都市窓口との連携 等
通訳者の変更	7	通訳者の事情(病気等)で変更 等
日程変更	26	派遣日の変更
相談員	1	通訳派遣を利用せず、相談員が対応した
合 計	421	

(カ)平成 26 年度より、利用者や通訳者の声を事業運営に反映し、事業の効率的な運営を目的とし、手話通訳者及び要約筆記者派遣事業運営委員会が市派遣事業実施要綱に位置付けられたことを受け、関係者と調整し運営委員会を発足させました。平成 26 年度については、手話・要約各 2 回の委員会を開催しました。構成団体は以下の通りです。

横浜市手話通訳者及び要約筆記者派遣事業運営委員会 構成団体

	団 体 名
手話	(一社)横浜市聴覚障害者協会 横浜市中途失聴・難聴者協会 横浜市手話通訳者協会 横浜市障害者社会参加推進センター 横浜市 横浜ラポール聴覚障害者情報提供施設
要約	横浜市中途失聴・難聴者協会 (一社)横浜市聴覚障害者協会 横浜市登録筆記通訳者協会 横浜市障害者社会参加推進センター 横浜市 横浜ラポール聴覚障害者情報提供施設

(カ)他都市窓口との連携では、神奈川県及び川崎市との派遣窓口会議を 1 回実施し、26 年度の神奈川県全域の派遣についての連携を確認しました。

(キ)通訳者との会議・懇談では、非常勤手話通訳者業務調整会議を 6 回、手話通訳者事業連絡会、筆記通訳者事業連絡会を各 1 回実施しました。また、平成 27 年度より、横浜市筆記通訳者研修会が横浜市中途失聴・難聴者協会から事業移管されることに伴い、指導を担う講師との会議を計 2 回開催しました。

イ 研修事業

通訳者の研修事業では、自主研修として、登録手話通訳者に対し、登録年次別・コース別研修等を計 23 回実施し、非常勤及び中堅登録手話通訳者に対しては専門研修を計 5 回実施しました。また、横浜市中途失聴・難聴者協会の行う筆記通訳者研修の支援(手書き・パソコン計 12 回)の他、要約筆記者登録試験対策として、横浜市中途失聴・難聴者協会と連携し、フォローアップ研修(筆記試験対策 2 回、実技 3 回)を実施しました。

手話通訳者研修事業については、これまでの取り組みを冊子(「手話通訳者養成に関する報告書」)にまとめ、全国の聴覚障害者情報提供施設他、関係団体 60 か所に送付しました。

(ア) 自主研修

a 登録手話通訳者 1 年次研修(対象者：7 人)

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	5 月 12 日	読みとり実技	7 人	非常勤手話通訳者 1 人
2	6 月 16 日	派遣事例検討	7 人	職員 2 人
3	7 月 7 日	聞きとり実技	7 人	非常勤手話通訳者 1 人 横聴協 1 人
4	8 月 4 日	各場面模擬通訳 I	7 人	登録手話通訳者 1 人 横聴協 1 人
5	9 月 1 日	各場面模擬通訳 II	7 人	登録手話通訳者 1 人 横聴協 2 人
6	2 月 2 日	一年次研修まとめ	7 人	職員 2 人

b 登録手話通訳者 2 年次研修 (対象者：8 人)

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	5 月 26 日	読みとり実技	8 人	非常勤手話通訳者 1 人 登録手話通訳者 1 人
2	7 月 28 日	事例検討	8 人	非常勤手話通訳者 2 人
3	9 月 29 日	事例討議・模擬通訳	8 人	非常勤手話通訳者 1 人 登録手話通訳者 1 人 職員 1 人
4	10 月 27 日	ビデオ事例検討・ 模擬通訳	8 人	非常勤手話通訳者 2 人

c 登録手話通訳者 3 年次研修(対象者：8 名)

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	6 月 23 日	相談事業と対人援助	8 人	職員 2 人
2	8 月 25 日	模擬通訳 (労働場面)	7 人	登録手話通訳者 1 人 横聴協 1 人
3	10 月 7 日	問題解決のステップ	7 人	世田谷福祉専門学校 1 人 職員 1 人

d コース別研修(対象者：全登録通訳者)

<聞きとり>

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	9月20日	豊かなイメージをふくらませようⅢ	71人	非常勤手話通訳者1人 登録手話通訳者2人
2	11月8日	舞台等の聞きとり通訳	66人	横聴協4人 職員1人 登録手話通訳者4人

<読みとり>

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	10月11日	二・三・四年次翻訳読みとりグループワーク	41人	非常勤手話通訳者1人 登録手話通訳者2人
2	11月22日	同時読みとり	55人	非常勤手話通訳者1人 登録手話通訳者1人

<対人援助>

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	7月5日	対人援助技術の基礎・応用	47人	職員2人

e 全体研修(対象者：全手話通訳者)

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	5月17日	講義「デマンド・コントロール・スキーマ」	99人	国立障害者リハビリテーションセンター学院講師1人
2	8月30日	講義「手話通訳者の健康」	91人	滋賀医科大学社会医学講座講師1人
3	9月27日	講義「手話通訳者が真の援助職となるために」	102人	九州産業大学 教授 1人
4	1月24日	講義「ろう教育の現状と課題」	85人	群馬大学教育学部 教授 1人
5	2月7日	講義「手話言語法関係」	81人	手話通訳士協会理事 1人

f 横浜市手話通訳者専門研修(対象者：非常勤30人・登録者61人)

回	実施日	内 容	参 加		講 師
			非常勤	登録者	
1	7月14日	事例検討「医療場面」	24人	44人	非常勤手話通訳者2人、職員1人
2	9月27日	講義「手話通訳士に成長をすスーパービジョン」	26人	40人	九州産業大学 教授 1人
3	11月10日	実技「聞きとり通訳」	28人	—	職員2人

4	1月19日	講義「報告書の書き方」	26人	40人	健康福祉局障害福祉課地域活動支援係1人
5	2月16日	演習「ピア・スーパービジョン」	26人	—	非常勤手話通訳者職員1人

(イ) 派遣研修

職員の業務上のスキルアップを目的とし、以下の研修にそれぞれ担当職員を派遣しました。

名 称	期日	場所	派遣者
全国要約筆記問題研究集会	6月21日～ 6月22日	石川県	職員1人
全聴情協コミュニケーション支援事業担当者研修会	7月16日～ 7月18日	京都府	職員2人
市町村手話通訳者・要約筆記者コーディネーター研修会	1月31日	神奈川県聴覚障害者福祉センター	職員1人
手話通訳者養成Ⅱリーダー養成講習会	3月7日～8日	京都府	職員1人
手話通訳士専門研修会	3月4日～6日	国立障害者リハビリテーションセンター学院	職員1人 非常勤手話通訳者1人

(4) 聴覚障害者相談事業

聴覚障害者及び音声又は言語機能障害者の日常生活の各種の相談に応じ、個々の実情に即した適切な処遇を図り、聴覚障害者等の福祉の向上に資することを目的として事業を実施しました。

今年度も高齢者(独居・夫婦世帯)を含めた出張計画に基づき、訪問(自宅・入所施設・入院先等)による相談の拡充を図りました。また、聞こえや補聴器に関する専門相談として、平成24年2月から開始された「聞こえの相談事業」については、聴覚障害者相談員と、リハセンターの言語聴覚士が連携して相談を実施しています。

ア 平成26年度事業の概況

(ア) 横浜ラポールへの来所相談に加えて、来所が困難な高齢者に対しては、聴覚障害者相談員が自宅等を訪問し、対象者の居住地の地域ケアプラザ等の事業所と連携しながら、相談支援を行いました。このような連携を持つことで、介護保険サービス以外の生活上の困難さや医療面のケアの必要性等、対象者の抱える問題の掘り起こしに繋がるとともに、関係機関の担当者等に、聴覚障害やコミュニケーション支援を理解していただく機会にもなっています。

<相談内容>(面接相談)

相談内容	実件数		延べ件数	
医療	67件	16.4%	189件	22.6%
職業	20件	4.9%	31件	3.7%
教育	1件	0.2%	6件	0.7%
住宅	32件	7.8%	51件	6.1%
生活	134件	32.9%	298件	35.6%
福祉	127件	31.1%	217件	26.0%
法律	17件	4.2%	33件	3.9%
聞こえの相談	10件	2.5%	12件	1.4%
合計 (昨年度)	408件 (348)	100.0%	837件 (655)	100.0%

<相談の場所>

面接場所	23年度	24年度	25年度	26年度
ラポール	577回	550回	505回	601回
出張	153回	175回	150回	236回
	訪問	95回	81回	68回
	同行	17回	32回	32回
	同席	40回	47回	34回
ケース会議	1回	15回	16回	1回
合計	730回	725回	655回	837回

<面接相談以外の対応>

聴覚障害者相談は、面接相談を基本としていますが、以前より、面接以外の方法による相談(電話、FAX、eメールなど)等についても対応しています。

内容	25年度	26年度
電話による相談	408件	593件
FAX 〃	395件	89件
eメール 〃	116件	224件
その他(郵便による相談、相談予約のための来所対応 等)	171件	82件
合計	1,090件	988件

相談者の状況(障害別の内訳)

種類	実人数			
聴覚障害者(個人)	ろう者	151人	84.4%	79.5%
	難聴者	28人	15.6%	14.7%
	小計	179人	100.0%	
健聴者(個人)	9人		4.7%	
機関、団体	2人		1.1%	

合	計	190人	100.0%
---	---	------	--------

聴覚障害者(個人)の居住地域

地 域 名	実人数		地 域 名	実人数		地 域 名	実人数	
鶴 見	15人	8.4%	旭	14人	7.8%	戸 塚	7人	3.9%
神 奈 川	11人	6.1%	磯 子	6人	3.4%	栄	11人	6.1%
西	4人	2.2%	金 沢	10人	5.6%	泉	6人	3.4%
中	8人	4.5%	港 北	13人	7.3%	瀬 谷	7人	3.9%
南	4人	2.2%	緑	12人	6.7%	市 外	6人	3.4%
港 南	11人	6.1%	青 葉	7人	3.9%			
保土ヶ谷	18人	10.1%	都 筑	9人	5.0%	合 計	179人	100.0%

- (イ) 「聞こえの相談事業」については、同事業の事務局として、運営委員会(委員10人)を2回開催しました。
- (ウ) 関連事業である横浜市障害者社会参加推進センター主催の講座「聞こえと補聴器」にて事業の説明を行いました。
- (エ) 関東ろうあ者相談員連絡会(年3回)、全国ろうあ者相談員研修会(佐賀県)に参加し、相談業務の一助としました。
- (オ) 啓発関係の取り組みとしては、主に以下の対応を行いました。

・講演、事業PR等

神奈川県民文化センター職員研修(※横浜市聴覚障害者協会と連携)、特別養護老人ホームスタッフ研修、神奈川県ろうヘルパー連絡会かもめの会「浜の会」の参加、横浜市立ろう特別支援学校学校訪問・高等部卒業前見学対応、他

・その他

相談事業・通訳派遣事業の利用促進を図るため、案内チラシを作成し18区役所の他、市内すべての地域ケアプラザに送付しました。

横浜市聴覚障害者協会、横浜市中途失聴・難聴者協会等会報への記事提供を行いました。

(5) ビデオライブラリー事業

聴覚障害者用に字幕を挿入したビデオ及びCS障害者専用放送統一機構「目で聴くテレビ」提供番組、通訳者研修教材ビデオの自主制作をおこない、字幕・手話入りビデオの貸出を行いました。また、ホームページでの動画配信を試験的に実施しました。

ア 平成26年度事業の概況

- (ア) ライブラリーの制作では、以下の通り合計54作品を制作しました。映画上映会等の字幕制作については字幕サークル「まじっく」の協力を得ました。

種 類	制作数	作 品 名 等	備 考
-----	-----	---------	-----

字幕付き 映画上映 会等の字 幕制作	3 作品	字幕付き舞台「どんぐりと山猫」 字幕付き舞台再演「どんぐりと山猫」 映画会「ぼくとママの黄色い自転車」	ラポール文化企画事業 との連携(字幕制作と 投影)
自主制作	2 作品	「地方の手話～横浜編～」 「つつうらうら～理容発祥横浜～」	オリジナル(CS 障害者 専用放送統一機構番組 提供含む)
	2 作品	情報提供施設からのお知らせ 「インフルエンザ」 「臨時福祉給付金」	オリジナル (ホームペ ージ上で手話と字幕に よる情報発信)
	46 作品	通訳者研修講演 手話通訳者研修教材	派遣事業との連携
字幕・ア フレコ等 制作	1 作品	事業団 P R 映像	事業団経営部との連携

(イ) ビデオライブラリーの貸出は、150 本の実績でした。

(ロ) 全国聴覚障害者情報提供施設協議会主催のソフト制作担当職員研修会(青森県)に参加し、業務の一助としました。また、第2回関東ブロックソフト制作担当職員研修会(神奈川県聴覚障害者福祉センター)の企画・運営を行いました。

(6) 視聴覚機器貸出事業

聴覚障害者団体や聴覚障害者を支援するサークル等に視聴覚機器の貸出を行いました。機器点検は、年 10 回実施しました。

内 訳			在庫数	件 数
O	H	P	3	8
ス	ク	リ	7	152
磁	気	ル	2	61
液	晶	プ	2	92
テ	ー	プ	3	57
ビ	デ	オ	2	47
O	H	C	2	53
V	H	S	1	33
パ	ソ	コ	2	230
パ	ソ	コ	2	125
合 計(昨年度)				858 (769)

(7) その他の事業

ア 広報事業

関係機関・団体および通訳者に対して聴覚障害者情報提供施設事業を紹介するため、機関紙「横浜ウエーブ」を年4回、各1,020部発行し、うち420部を横浜市聴覚障害者協会の会報「はま」に同封して頂きました。またラポールホームページにも掲載しました。

イ 頸肩腕特殊健康診断

非常勤手話通訳者、登録通訳者（月平均5件以上稼働）及び情報提供施設職員については7月と1月に直接検診を実施、登録手話・筆記通訳者全員には年1回問診票による予備検診を実施し241人が受診しました。予備検診の結果、直接検診が必要な通訳者は、7月の直接検診を受診しました。1回目の直接検診の結果、検診医から必要と判断された者は、2回目の検診も必ず受けてもらうこととしました。

<直接検診結果>

種 類	回	A	B1	B2	B3	C	計	判定基準
非常勤手話 通訳者	1	24	1	1	0	0	26	A :異常ありません
	2	29	1	0	0	0	30	B1 :疲労回復に心がけましょう
登録手話・ 筆記通訳者	1	45	0	0	0	1	46	B2 :働き方の見直しと改善を要します
	2	36	1	0	0	0	37	B3 :治療と業務軽減を要します
情報提供 施設職員	1	10	1	0	0	0	11	C :休業治療を要します
	2	10	1	0	0	0	11	(日本産業衛生学会頸肩腕障害研究会)

ウ 全国聴覚障害者情報提供施設協議会等との連携

第10回聴覚障害者情報提供施設総会及び大会(長崎県)、関東ブロック会議(横浜市)に参加しました。また、他の聴覚障害者情報提供施設と連携し、CS障害者専用放送統一機構に番組を提供しました。

エ 関係機関・団体との連携

- ・(一社)横浜市聴覚障害者協会(以下:横聴協)関係

横聴協が実施する手話奉仕員・通訳者養成事業に関する以下の会議等に、関係団体とともに出席し、協議・協力を行いました。

会議名	回数等
手話(養成)運営委員会	計11回
手話養成講師会	計8回
手話養成講師研修会	計16回(奉仕員、通訳者各8回)
横浜市手話通訳者登録試験 (統一試験)	前日準備、当日運営協力、審査会準備作業等
同 試験委員会	計4回
同 審査会	計4回
平成27年度手話養成講習会説明・選考会	計3回

・横浜市中途失聴・難聴者協会（以下：浜難聴）関係
浜難聴が実施する要約筆記者養成事業に関する会議等に、関係団体とともに出席し、協議・協力を行いました。

会議名	回数等
要約筆記者養成に関する検討	計 4 回
横浜市要約筆記者登録試験（統一試験）	前日準備、当日運営協力等
同 試験委員会	計 4 回
平成 27 年度要約筆記者養成講習会説明・選考会	計 1 回

カ 視察・実習対応

国立障害者リハビリテーションセンター学院、世田谷福祉専門学校、調布市手話通訳者の会、市立ろう特別支援学校(高等部)、宮城県聴覚障害者福祉協会他に対応しました。

キ 行事等への出席

・式典来賓登壇、講師対応等

横浜市聴覚障害者の集い、神奈川県ろうあ者大会、横浜市聴覚障害者新年のつどい（以上来賓登壇）、横浜市手話通訳者養成講習会、横浜市立ろう特別支援学校職員研修会、（以下再掲）講座「聞こえと補聴器」、神奈川区文化センター研修、特別養護老人ホームスタッフ研修、神奈川ろうヘルパー連絡会かもめの会「浜の会」、横浜市立ろう特別支援学校学校訪問他に対応しました。

5 広報事業

横浜ラポールの利用を促進し、障害者の社会参加及び障害者とその他の市民相互の交流を図るため、次のとおり実施しました。

(1) 横浜ラポール広報誌・催し物案内の発行

月間催し物案内「ラポラポ」を毎月 4500 部発行し、行政機関、地域活動ホーム等の障害児・者施設をはじめ、障害者関係団体約 500 か所で配布しました。また、全国障害者スポーツ大会の横浜選手団の結果報告として、「ラポラポ増刊号」を発行しました。視覚に障害のある方や、高齢者向けの読み上げ装置(スピーチオ)を総合受付脇に設置しています。

(2) 事業概要(年報)の発行

(3) 視察・見学者への施設案内

件数：33 件(昨年度 34 件) 人数：529 人(昨年度 590 人)

(4) インターネットによる広報

ホームページをリニューアルし、広く施設情報を紹介しました。

6 その他

利用者へのサービス向上を図るため、利用者満足度調査を行いました。また各種研修・訓練等の実施により、施設の円滑な運営や安全管理を進めると共に、職員の業務に対する意識の向上に努めました。

(1) 利用者満足度調査

施設運営上の課題等を把握し、利用者へのサービス向上を図るため、利用者満足度調査を昨年度に引き続き実施しました。

ア 実施方法	アンケート方式（無記名）
イ 実施期間	平成27年3月12日～3月31日
ウ 回収数	394通
エ 結果	

1 利用者の方に障害はありますか。

①ある	181人	(45.9%)
②ない	201人	(51.0%)
③無回答	12人	(3.0%)

2 利用者の方の年齢はいくつですか。

①10代以下	36人	(9.1%)
②20代	25人	(6.3%)
③30代	70人	(17.8%)
④40代	58人	(14.7%)
⑤50代	77人	(19.5%)
⑥60代	68人	(17.3%)
⑦70代以上	54人	(13.7%)
⑧無回答	6人	(1.5%)

質問1 ラポール職員の対応についてうかがいます。

①とても満足	222人	(56.3%)
②やや満足	89人	(22.6%)
③ふつう	71人	(18.0%)
④やや不満	4人	(1.0%)
⑤とても不満	4人	(1.0%)
⑥無回答	4人	(1.0%)

質問2 ラポール主催のスポーツ事業(教室・大会など)に参加したことがありますか。

①はい	189人	(48.0%)
②いいえ	204人	(51.8%)
③無回答	1人	(0.3%)

質問2-2 「はい」の方についてうかがいます。参加されていたいかがでしたか。

①とても満足	87人	(46.0%)
②やや満足	73人	(38.6%)

- ③ふつう 25人 (13.2%)
- ④やや不満 1人 (0.5%)
- ⑤とても不満 0人 (0.0%)
- ⑥無回答 3人 (1.6%)

質問3 ラポール主催の文化事業(シアター事業・教室など)に参加したことがありますか。

- ①はい 162人 (41.1%)
- ②いいえ 189人 (48.0%)
- ③無回答 43人 (10.9%)

質問3-2 「はい」の方のうちがいます。参加されていかがでしたか。

- ①とても満足 70人 (43.2%)
- ②やや満足 66人 (40.7%)
- ③ふつう 20人 (12.3%)
- ④やや不満 0人 (0.0%)
- ⑤とても不満 1人 (0.6%)
- ⑥無回答 5人 (3.1%)

質問4 ラポール内の掃除についてうかがいます。

- ①とても満足 191人 (48.5%)
- ②やや満足 92人 (23.4%)
- ③ふつう 65人 (16.5%)
- ④やや不満 3人 (0.8%)
- ⑤とても不満 4人 (1.0%)
- ⑥無回答 39人 (9.9%)

質問5 ラポールの空調(暖房・冷房・ほこりなど)についてうかがいます。

- ①とても快適 114人 (28.9%)
- ②やや快適 115人 (29.2%)
- ③ふつう 99人 (25.1%)
- ④やや不快 20人 (5.1%)
- ⑤とても不快 2人 (0.5%)
- ⑥無回答 44人 (11.2%)

(2) 職員研修

障害者の多様化するニーズに的確に対応するため、職員一人ひとりの育成が非常に重要となっています。ラポールでは、人材育成を目的とした研修を積極的に実施し、職員としての知識を深めています。以下は、利用者への対応や施設の安全管理等を目的とした、職員および非常勤職員を対象とした研修です。

<職員研修>

研修名	回数	参加者数
個人情報取扱い研修会	随時	139人
救急救命研修会 (7月23日午前・午後)	2回	51人

防災研修(2月17日)	1回	45人
人権研修(3月17日)	1回	47人
通報訓練	57回	228人

(3) 防災対策

ラポールは、障害者を中心とした、市民開放施設であるため、災害時の被害を最小限とするため、日ごろから職員をはじめ、ラポール館内の障害者団体職員や委託先業者等も含め、防災に対する共通認識を持ち、災害発生時には、情報を迅速に収集すると共に、初期消火、利用者の避難誘導に努めます。

自衛消防組織の編成及び任務

自衛消防隊長 副隊長 (館長) — (副館長)	—	通報連絡班長：消防機関への連絡、館内放送 (管理・文化事業課長)
	—	初期消火班長：消火器・屋内消火栓による初期消火活動 (スポーツ事業課長：振興担当)
	—	避難誘導① 班長：館内利用者の避難誘導 (スポーツ事業課長：指導担当)
	—	避難誘導② 班長：館内利用者の避難誘導 (スポーツ事業課長：人材担当)
	—	避難誘導③ 班長：館内利用者の避難誘導 (聴覚障害支援課長)

<消防訓練の実施状況>

実施日	内 容
5月27日	横浜ラポールの地震発生を想定した防災訓練
10月28日	横浜ラポールの地震発生を想定した防災訓練
10月29日	地震及び火災を想定した、リハセンター・横浜ラポール・横浜市保健医療センターとの3施設合同の防災訓練

(4) 運営委員会の開催

横浜ラポールの運営に障害者等利用者の意見を反映するため、関係者で構成する運営委員会を開催しました。

開催状況 年2回(6月18日、12月10日)

(5) 施設利用状況

横浜ラポールでは、障害者を優先的に施設の貸出を行いました。

ア 利用区分による利用状況

	利 用 者 数		昨年度
個人利用数	177,400 人	(100.0%)	181,505 人
障害者	126,201 人	(71.1%)	130,995 人
介護人等	32,812 人	(18.5%)	33,046 人
一般	18,387 人	(10.4%)	17,464 人
団体利用数	272,374 人 (7,494 団体)	(100.0%)	262,749 人 (7,970 団体)
障害者	100,877 人	(37.0%)	91,260 人
介護人等	46,489 人	(17.1%)	48,178 人
一般	125,008 人	(45.9%)	123,311 人
利用者数 合計	449,774 人(1 日平均 1,303.3 人)		444,254 人

イ 障害別による利用状況(個人利用の内訳)

内 訳	利 用 者 数		昨年度
肢体不自由	72,396 人	(57.4%)	78,047 人
知的障害	26,491 人	(21.0%)	26,748 人
精神障害	8,219 人	(6.5%)	8,094 人
視覚障害	3,989 人	(3.2%)	4,030 人
内部機能障害	5,321 人	(4.2%)	4,146 人
重複障害	5,839 人	(4.6%)	5,711 人
聴覚障害	3,946 人	(3.1%)	4,219 人
合 計	126,995 人	(100.0%)	130,995 人

ウ 施設別区分による利用状況

	利 用 者 数		昨年度
スポーツ施設	271,521 人	(100.0%)	274,599 人
プール	58,429 人	(21.5%)	77,599 人
メインアリーナ	76,196 人	(28.1%)	66,006 人
フィットネスルーム	61,465 人	(22.6%)	58,493 人
サブアリーナ	30,603 人	(11.3%)	30,268 人

屋外グラウンド	14,772 人	(5.4%)	15,862 人
ボウリングルーム	13,824 人	(5.1%)	12,000 人
地下グラウンド	9,953 人	(3.7%)	8,719 人
テニスコート	6,279 人	(2.3%)	5,179 人
文化施設	178,253 人	(100.0%)	170,128 人
ラポールシアター	47,249 人	(26.5%)	56,692 人
大会議室	33,976 人	(19.1%)	30,159 人
ラポールボックス	33,277 人	(18.7%)	25,565 人
ラポール座	19,366 人	(10.9%)	16,508 人
和室	14,763 人	(8.3%)	14,879 人
創作工房	10,748 人	(6.0%)	10,055 人
小会議室	8,806 人	(4.9%)	7,328 人
おもちゃ図書館	10,027 人	(5.6%)	8,853 人
聴覚障害者情報提供施設 ¹⁾	41 人	(0.0%)	89 人

*1) 聴覚障害者用字幕付きビデオ貸出人数